

佳作

盆のお迎え

滋賀県 大津市立志賀中学校三年 中村 丞

僕の家は養鶏農家で、農場で三匹の犬を飼っていました。その中でも最も食欲旺盛でわんぱくな性格の「うめ」というメスの犬がいました。うめは数年前に左前足を失い、三本足であるものの、よくリードをちぎったり、首輪から頭を抜いて脱走したりする犬でした。

八月に入って盆休みが始まる頃、母親からまたうめが脱走したと聞きましたが、うめの脱走はあまり珍しいものではなかったので、

「そうか。じゃあまた捕まえないとな。」

と僕は言い、そこまで気にかけていませんでした。そして脱走から四日後の夜、僕はいつも通りうめに自然に近づいて行き、捕獲しました。その時のうめは山の方に行っていたらしく、とても異様な臭いがありました。それは猪の沼田場の臭いでした。

「また沼田場で遊んできたんだな。」

と僕は言い、やさしく頭をなでてやりました。遊び切った疲れなのか、とても餌を欲しがっていました。その日は夜も遅かったので餌をやってから家に帰りました。

二〇一八年八月十四日の夜、僕はその犬と別れる事となりました。その日の夜は家で宿題をしていました。母が家に帰ってからすぐ、農場で仕事をしている父から母の携帯に電話がありました。突然母がびっくりしたような声を上げました。その声や顔、母が発している言葉の内容から、良くない事であると僕は察しました。母の言葉を聞きながら僕は呆然と立ち尽くしていました。何分か経ってから母が電話を切り、一言

「うめが猪に襲われた。」

と言いました。僕は状況がよく分からなかったので、水を一杯飲んで椅子に腰掛け、落ち着いてから尋ねました。どうやら猪に二頭がかりで攻撃を受けたらしく、立って歩くこともできない程であると聞き、不安が僕の心に漂いました。とりあえず、農場へ行きうめがどういう状態なのかを確かめる為、車に乗り込み、農場へ向かいました。農場に着くと父が小

屋の椅子に座っており、近くにはとても悲惨な姿のうめが横になっていました。体中が傷だらけで出血していて、右の後足は噛み砕かれたらしく、まるで神経が通っていないように変な方向に曲がっていて骨が突出していました。数日前の脱走で猪に何か縄張りを荒らすようなことをして、怒った猪が二頭で反撃したのではないかと父は言っていました。いつも世話になっていている獣医さんに電話したところ、農場まで来てくれると聞いて僕は少し安心しました。しかし獣医さんに診てもらったところ、二本足になると一生寝たきりで生活することになると聞いて、僕は楽にしてやった方がいいかなと思いました。父も母もそれに同意しました。それがうめの望んでいる事かは僕には分かりませんでした。うめは静かにこっちを見つめていて、まるでどうなるか分かっているようでした。大動脈に注射をした直後、三回大きく呼吸をした後、目から魂が抜けたように、うめは静かに息をひきとりました。僕には初めての経験でした。命というものがよく分かる出来事となりました。